

施策No.	政策名	生きがいを育む学びのまちづくり	主管課	文化財課	主管課長名	
2-5	施策名	文化財の保存活用	関係課	ヤマザクラ課、都市整備課		

1. 施策の目的と成果把握

施策の対象	対象指標名	単位	区分	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	
・市民 ・桜川市内に存在する文化財	①桜川市人口	人	見込値	37,653	37,269	36,647	36,500	35,897	
			実績値	37,653	36,794				
	②指定文化財数	件	見込値	129	129	130	130	131	
			実績値	129	129				
	③登録文化財数	件	見込値	102	102	102	102	102	
			実績値	102	101				
施策の意図	成果指標名	単位	区分	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	
文化財を保存・活用して継承し、地域に愛着や誇りを持っている。	①文化財などを大切にし、後世に伝承していくべきと思う市民の割合	%	目標値	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	
			実績値	79.8	80.4				
	②郷土の伝統行事や文化財に愛着心や誇りを感じている市民の割合	%	目標値	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	
			実績値	50.6	48.7				
	③歴史講座等に参加した人数(R4から新規)	人	目標値	120.0	140.0	160.0	180.0	200.0	
			実績値	119.0	232.0				
				目標値					
				実績値					
			目標値						
			実績値						
成果指標設定の考え方	「文化財を保存・活用して継承し、地域に愛着や誇りを持っている」は、①文化財などを大切にし、後世に伝承していくべきと思う市民の割合を、実測値を80%に維持することにより継承出来ると判断した。②郷土の伝統行事や文化財に愛着心や誇りを感じている市民の割合を実測値50%に維持することにより維持出来ると判断した。③歴史講座等に参加した人数を増加させることにより、施策の意図が醸成されると判断した。								
成果指標の把握方法と算定式等	○対象の人口は、毎年10月1日の常住人口。 ○①文化財などを大切にし、後世に伝承していくべきと思う市民の割合、②郷土の伝統行事や文化財に愛着心や誇りを感じている市民の割合は、市民アンケートより求める。③歴史講座等に参加した人数は、現地説明会や各種講座等の受付簿より求める。								

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	市民アンケート結果は、ほぼ横ばいで推移しているが、全体的な微減傾向は変わっていない。新型コロナウイルスの影響は小さくなったが、集落の高齢化により民俗行事の途絶が続く流れには歯止めがかかっていない。地域おこし協力隊事業で一般向けイベントの試行を強化したため、歴史講座等への参加者は増加している。		

2) 成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを上回った	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを下回った	
背景・要因	①文化財などを大切にし、後世に継承していくべきと思う市民の割合は、令和5年度目標値80.0%に対し、80.4%と0.4ポイント上回った。 ②郷土の伝統行事や文化財に愛着心や誇りを感じている市民の割合は令和5年度目標値50.0%に対し、48.7%と1.3ポイント下回った。 目標値を現状から設定しているため、現時点はほぼ設定通りである。 ③の歴史講座等に参加した人数は、地域おこし協力隊事業でのイベントが多かったため、目標値を上回った。 アンケート結果を地区別に見ると、指標①では岩瀬地区78.1%、真壁地区83.9%、大和地区82.8%と高い水準にあるが、岩瀬地区は他に比べて4ポイント近く低い。指標②では、岩瀬地区42.3%、真壁地区57.6%、大和地区52.2%となっており、岩瀬地区と真壁地区とでは約15ポイントの開きがある。		

3. 施策の成果実績に対するの総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対するの総括	今後の課題・方針
令和5年度に貢献度が高かった事業は、指定文化財等維持管理・調査事業、国指定史跡真壁城跡保存整備事業(発掘調査・発掘説明会)、歴史的建造物管理運営事業であった。 国・県指定文化財の修理や調査を多数実施し、文化財の保全や安全対策が進んだ。地域おこし協力隊活動が順調となり、各種イベントの開催数、参加者数が増大した。	史跡真壁城跡の発掘調査に注力しているため、史料調査や企画展示に重点を置くことが難しくなっている。体制の整備や資料保存活用の優先順位に関する総合的な情報整理などを行い、活用しやすい収蔵施設の安定的な確保を行う必要がある。コロナ禍の影響で民俗芸能や祭礼行事、講中など多くの地域行事が縮小、休止され、そのまま再開できずに廃止、解散される事例が増えている。住民の年代構成によるものと考えられるが、岩瀬地区での文化財への評価が低い状況にあり、特に重点を置いて情報発信や教育普及事業を実施する必要がある。